



《エクササイズとムーブメント》

日本では「運動が得意」というと身体を動かすことだけが得意というイメージですが、欧米では「運動が得意」＝「知性が高い」と考えられています。運動は、動きを教え込む「エクササイズ」ではなく、意志が重要な意味を持つ「ムーブメント」という捉え方でいい、指導の言葉かけを工夫して動きを引き出すことで、感性と知性を伸ばすことができるのです。



《運動の経験が感性と知性を高める！》

日本人は勤勉で知性が高く、欧米より200年前にも、和算で微分積分が使われていました。「長さ」や「数」の概念が、身体の部位を基準としているように、幾何学や物理学は、運動の経験があっはじめて理解できます。

近年、日本人でノーベル賞を受賞した方々の世代は、四季折々の豊かな自然の中で、存分に身体を動かして遊んだ経験を積んでいます。

今の若い世代は、ペーパーテストの成績は良くても、適切に言葉の意味を理解できなかったり、頭では分かっているが、行動が伴わない状況が見られたりします。運動によって、感性と知性を高め、未来に向けた人材を育成することが、本プロジェクトの目的のひとつです。



▲境の明神（白坂）には和算額が奉納されています

★次回「運動能力を伸ばす方法」をご紹介します。

本庁舎学校教育課 内2365

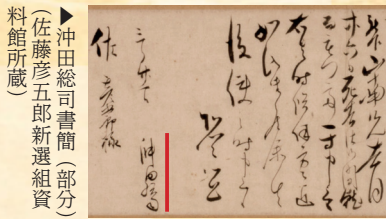


甦る「仁」のころ  
白河戊辰戦争150年

未来へつなごう「仁」のころ  
白河戊辰戦争回顧録

第2回 戊辰戦争の考察文①

《白河と沖田総司・土方歳三》  
5月には白河ゆかりの新選組隊士2人の命日がある。慶応4年（1868）5月30日に沖田総司が病死。翌明治2年5月11日には土方歳三が戦死している。新選組副長助勤、一番隊長長で隊内屈指の剣客として勇名を馳せた沖田は白河藩士の子であった。沖田は、最後の白河藩主阿部家の足軽小頭という身分の沖田勝次郎の子として江戸の白河藩下屋敷に生まれた。父勝次郎が亡くなった時、まだ幼かったので、沖田は家督を継ぐことができなかった。そのため沖田の姉のミツが井上家より林太郎を婿に迎えたのである。やがて沖田は近藤勇の天然理心流道場試衛館に入門し、めきめきと剣の腕を磨いていく。その剣は天才的と言われ、12歳（14歳の説もあり）の時には阿部家の剣術指南役と対戦し、勝利するほどの技量であったという。その後沖田は新選組に入隊し京都で活躍するが、鳥羽伏見の敗戦により、江戸に戻り病氣療養。一方の土方は江戸から会津へと落ち延び、怪我の療養。白河で戦争が始まると土方は齋藤一を隊長に命じ、「白河新選組」が白河戦争で戦うことになる。



▶沖田総司書簡（部分）（佐藤彦五郎新選組資料館所蔵）  
▶上小屋地区にある江戸時代末期の宿町割図



▲土方歳三肖像写真（土方歳三資料館所蔵）

怪我の具合が良くなった土方は、6月26日湖南（会津領）から大信の上小屋まで出陣したという記録が残っている。病氣療養していた沖田は、かつての仲間が白河奪還のために戦っている最中に、千駄ヶ谷の植木屋の離れで、一人静かに息を引き取っていた。土方は会津落城後、榎本武揚の艦隊と共に北海道に渡り、箱館戦争を戦い、そこで戦死する。現在でも全国の沖田と土方ファンは、盛大な慰霊祭を行っている。（文・植村美洋）

お知らせ

トピックス

ラウンジ

リぶらん

シリーズ

子育て

保健

暮らしの情報館

コトバ

地域おこし協力隊

休日当番医・無料相談ほか

市長の手控え帳